

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0171200140 | | |
| 法人名 | すまいる株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームすまいる うれし館 | | |
| 所在地 | 恵庭市和光町4丁目8番1号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年12月6日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年2月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中、楽しく穏やかに過ごしていただけるよう努めています。
 ・庭には花や野菜を植えており、外気浴をしながら景色を楽しんだり、野菜の収穫をしたりしながら、季節を楽しむ事ができます。
 ・毎日の体調管理を徹底しており、看護師、介護職共に日々の状況を細やかに支援しております。
 ・「食べる」を大切にし、季節の物や、好きなものをメニューへ取り入れたり、外食やバーベキューを行うなどして楽しんでいただけるよう、努めています。また、一人一人に適した食事の状態を工夫し、提供しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0171200140-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット |
| 所在地 | 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401 |
| 訪問調査日 | 平成29年12月22日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすまいる」はバス停から近く、閑静な住宅地に立地した2階建て2ユニットの事業所で、開設して14年が経過している。神社祭など地域の行事は回覧板や運営推進会議で地域の方からの情報、さらに電話での一報もあり、出来る限り利用者と一緒に参加している。中庭でのバーベキューや法人主催の合同夏祭りには地域住民の参加がある。また、雪かきや畑の手入れ、ウエスや畑で採れた野菜などの差し入れがあるなど、自然体で地域交流が行われている。運営推進会議では家族や複数の地域住民、市や包括職員、消防署員の出席があり、多様な意見交換が行われ事業所の運営やケアの充実に繋げている。現在、看護職員が5名いることから、利用者の健康状態をいち早く察知出来る環境にあり、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、利用者が落ち着いた環境の下でいつまでも健康でいて欲しいと、寄り添いの時間確保のため法人に調理と清掃専門職員の配置を希望し実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 7つある事業所理念を朝礼で反復することで、職員間で理念を共有し、介護の実践ができるよう心掛けている。 | 「安全で 楽しく 穏やかに」をキーワードとした法人理念を共有し、さらに年間と月間の目標を策定して日常業務や会議等で実践の確認を行っている。事業所独自の理念作成について職員間で話し合うことを検討している。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 市や町内の催し物の情報を事前にチェックし、参加できるようにしている。 | 地域住民の理解と職員の努力により、祭りなど相互の行事に参加がある。介護相談や実習生、合唱などのボランティアの受け入れ、また、ウエスや野菜など食べ物の差し入れがあるなど、自然体で地域交流が行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 機会を持っていない | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での、現状の報告を通して、意見の交換をしたり、サービスの向上に対するアドバイスをいただいたりしながら、それを現場で反映させている。 | 会議は、家族や複数の地域住民、市や包括支援センター職員、消防署員の出席の下、活動報告に加え事故やヒヤリハット、防災関連等を協議している。メンバーからの助言や情報を運営に反映している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議をはじめ、市町村担当者に事業所の実情を知っていただける機会を持ち、協力関係を築いている。 | 運営推進会議に市の職員が出席しており、実情を報告をしている。事故報告や相談事で都度担当窓口を訪れ意見や提案を得ており、事業所の質向上に繋げている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員が身体拘束行為を理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者様に危険がある場合は、やむなくご家族同意の上、身体拘束を行う流れとなっている。 | 身体拘束や虐待防止関連の研修会参加後に、伝達講習で全職員の理解に繋げ適切なケアの実践に努めている。玄関の施錠は夜間のみとし、利用者の自由な暮らしを支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修や勉強会を通じ、虐待に対する理解を深め、一人ひとりが虐待を行わない、という意識を持てるよう努めている。また、職員同士コミュニケーションを取りながら、何か問題が起こった時には指摘しあえるような関係作りを行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業の研修には行けていない。成年後見制度については市の出前講座に来ていただき、多くの職員で学べるよう予定している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、説明を行い理解していただいたうえで契約させていただいている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族がいらした際には、話しやすい雰囲気を作るよう職員内でも努めている。運営推進会議に参加していただけたご家族の方には、その際にご意見をいただいている。 | 利用者が意見を表すことは少ないが、家族とはフランクに話し合える関係にあり、率直な意見が聞かれケアプランに反映することもある。利用者の様子は、個別の状態を記載したユニット便りや家族来訪時に伝えている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常生活の中や、職員会議を通し、職員の意見を聞くようにし、業務へ反映させている。 | 職員は、管理者やリーダー格の職員にケアの充実や就業環境の整備に繋がる意見を伝えている。法人の部長は、朝礼に参加するなど事業所の情報を共有している。要望により調理や清掃職員が配属されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 会社として、個々の職員の勤務状況、実績を把握し、反映させていく体制作りを行っている段階である。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々に適した研修を受けられるよう努めているが、実情として業務をしながらの研修参加が難しい時もある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 恵庭市内でのグループホーム主体のネットワークがあり、その中で研修を行ったりし、サービスの質の向上を図っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 困りごと、不安などどのようにしていきたいかなどのお話を受け止め、安心して委ねていただけるような信頼関係を築けるよう努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 傾聴を重視し、大切なご家族である方を、安心して託していただけるよう、また常に気軽に相談していただけるような体制作りをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の要求を伺い、出来るだけ多くの情報を得たうえで、現状に合わせた支援を見極め、対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 築けている。家族のような関わりの中、役割も持っていただき実施している。職員としても、利用者さんに教えていただくことも多く、「ありがとう」と言葉をかわしあえる関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日常的に来所時や、電話にて近況報告するとともに、関わりに対し、ご家族からの要望、意見なども聞けるようにしている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 普段の会話の中で、行きたい場所やゆかりのある所などを聞き出し、外出レクとして実施している。 | 面会に訪れる家族や知人には居室に椅子を用意し、お茶を出すなど居心地良い環境作りに努め、会話の中から利用者の情報を得ることもある。海を見たい、自宅に行きたいなど利用者の要望に応えている。墓参りは、家族が同行している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個人の意思や意見、または介護士からみて一番良いと思えるような環境作りをしている。孤立している時には、職員が間に入り対応させていただいている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も、ご本人と職員間の関係が続いている方もいる。ホームとしては、退居後であっても何かあったら相談にのれるような体制づくりを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の話すことを傾聴し、対応させていただいている。出来ないことは、納得していただくよう、お話しさせていただいている。 | 利用者が思いを表すことは殆ど無いが、関わりから得た言葉や家族、知人からの情報を基に利用者の意向を汲み取れるよう職員間で検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | できる限り、ご本人の今までの生活習慣に寄り添う介護に努めているが、時間がなく対応が難しい時もある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現状での一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族への支援を第一とし、その方に対し最適な支援となるよう、話し合いの場を持ち、意見・アイデアを出していただいたうえで、要望に合うよう計画を作成している。 | ケアプラン作成時は、定期的なモニタリングやアセスメントが生かされている。関わりから得た利用者・家族の意向や医療関係者の所見を踏まえ、適切な支援になるよう職員間で意見交換が行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を作成し、職員間での情報共有、介護計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 現状のニーズに対応して、既存のサービスのみには捉われない柔軟な対応ができるよう、取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 事前に把握し、活用できるかどうかを検討したうえで、生活に楽しみや張りがあるような支援ができるよう心掛けている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 個々のかかりつけ医には継続して受診している。病院の変更や、新しくかかる必要がある場合は、ご家族を含め、説明してから受診している。 | 利用者や家族が希望する医療機関に受診している。家族の同行が困難な時は、看護職員が受診支援を行っている。診療内容は受診経過記録で確認でき、関係者と共有している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の観察したことを申し送りで継続して観察していけるよう情報を共有している。その中で適切な受診、看護を受けられるよう対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、今以上にこまめな情報交換ができると思う。もっと積極的に病院と関わる必要がある。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 早い段階から話し合いを行い、事業所として行えることを説明し、家族・医療関係者・職員と一体となって支援している。 | 入居時に重度化や終末期に於ける指針を説明し、同意を得ている。状態悪化に伴い主治医・家族と情報を共有し、重篤時は医療機関や他の福祉施設での支援としている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修をもうけ、適切な対応ができるようにしている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、消防署立ち合いのものと避難訓練を行っており、職員間で避難法を身につけている。その際には、地域住民の方にもボランティアとして参加をお願いしている。 | 消防署の指導の下、地域住民の協力を得て今年度2回目の夜間想定避難訓練を終えている。消防署本部での研修会参加や災害時備蓄品を随時用意するなど非常時に備えている。 | 地震想定の実施しているが、川の氾濫や火山灰降灰の危険地域になっていることから、停電、断水を含む自然災害想定の実施やケア別の対応、避難場所の確認と家族への周知を期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 親しさの中にも、人生の先輩として、敬意を持ち、人格を尊重しながら支援をしている。 | 馴れと親しみの違いを意識した言葉かけや対応に努め、職員間でも注意し合える関係にある。個人関連の書類は事務室で保管するなど、プライバシーへの配慮も行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話の中や質問をすることで、ご本人の思いを引き出し、希望を表したり、自己決定を出来るよう、心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 極力ご本人のペースで日々の生活を送って頂けるよう支援している。どうしてもこちらの都合を優先せざるを得ない場合は、状況を説明し納得して頂いてからすすめている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の意向を尊重し、身だしなみやおしゃれをお手伝いしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の物を食べる楽しみや、好き嫌いに応じた食事内容を提供している。食事の準備・後片付けもできる方にはお願いをしている。 | 利用者の好みや要望を取り入れた献立を作成し、食卓拭きなど利用者の手伝いを得るなど一緒に食事作りをしている。旬の食材や菜園の収穫物を活用した家庭料理を作り、時には行事食や外食、中庭でのお茶会、弁当持参の外など、食に変化を付けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | メニュー表に沿って、栄養価・カロリーを考慮して調理をしている。個人個人に合わせて食事形態を工夫している。水分も個人差に応じ、適切な量を取っていただけるよう支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 就寝時・起床時の口腔ケアの支援・声掛けをおこなっている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンで介助・声掛けを行っている。出来る限り自立に向けトイレでの排泄ができるよう支援している。 | 利用者の様子を見極め、尊厳に配慮した声かけや誘導、見守りを行いトイレでの排泄支援を行っている。衛生用品は、日中は布下着を着用するなど利用者それぞれの状況に合わせて使い分けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤の調整をドクターの許可をもらい、行っている。薬以外でも繊維質の多い食材や乳酸菌を食事に取り入れるなどの工夫をしている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 日にちが開かないよう、すすめているが、拒否が強い場合は見送り、気分のいい日に入浴していただくようにしている。入浴剤なども使用し、気分良く入浴していただけるよう、努めている。 | 毎日入浴出来る態勢を整備しているが、基本的には日中週2回の入浴支援を行っている。状態により清拭やシャワー浴で保清に努めている。入浴中は歌声が聞こえたり、口数が多くなる利用者もおり寛げる環境になっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の生活パターンやその時の体調・状況に応じ休息できるようにしている。居室環境にも気を使い、ゆっくり眠れるよう支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬を理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や力を考慮し、台所作業や季節での花植え、野菜収穫、ほか行事参加などを通じ、生活に張り合いを持っていただけるよう支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の希望に添えるように話し合い、戸外に出られるようにしている。遠方の場合、全体会議を持ち、対応できない場合、ご家族へお伝えし行っていただく場合もある。 | 外出は散歩や買い物など家族の協力を得ながら利用者の希望を取り入れている。中庭での日光浴やドライブを兼ね花見、紅葉狩り、水族館、道の駅など、行楽地を訪れ気分転換に繋げている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される場合、お小遣い程度、持っていただく事もある。買い物の際、ご自分で選び、支払いしていただくなどの支援をおこなっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話・手紙ともに希望に応じ、対応している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一日の大半を過ごす場所でもある為、居心地や安全性も考え、常に気にかけるようにしており、手作りの装飾品や観葉植物を置き、会話が弾む楽しみにもなっている。 | 食堂兼居間は、床暖房や冷暖房機、加湿器を設置している。壁には季節(クリスマス等)に因んだ飾り付けが施され華やかな雰囲気を出している。利用者の習字や日常の様子や行事での写真も彩りを添えている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間は独りになれる場所はないが、居間のフロアでは入居者同士、思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた物や、家族写真・作品など置かれている。空間作りを工夫するようにしている。 | 居室は利用者や家族の意向に沿って家具や鉢物等が置かれ、趣味の物等が飾られている。温湿度や清掃、動線にも配慮があり、生活しやすい環境になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歩行や移動がスムーズになるよう、全体的に設置されており、洗面所・トイレ・居室など分かりやすいように張り紙をし、判断しやすいようにしている。 | | |